

ぶらネットこまき

(古牧地区住民自治協議会広報紙)



第69号

古牧だより通算163号

ふるさと文化芸能祭を開催！

特別公演もあり盛大に

11月3日文化の日にふさわしく、古牧地区で第31回ふるさと文化芸能祭を開催しました。

古牧公民館での展示部門は、2階和室で小学生の「いけ花こども教室」によりかわいい生け花が並びました。集会室では、13地区から寄せ



られた書道、生花、絵画、写真、粘土細工、籐工芸など1年間の力作85点を超える作品の展示が、訪れた人達の目を楽しませていま



た。作品の中には本物の柿と葉を盛付けた傑作もあり、話題になりました。来場者は、300人を超えました。

一方、古牧小学校西体育館においては、芸能部門が盛大に取り行われ、第一部では学校・各種団体による美しいハーモニーを響かせる合唱、ヒット曲を集めた吹奏楽、はたまた扇子を使った太極拳とバラエティに富んだ内容でした。第二部



は地域公民館からの芸能披露ですが、最初に「にとはちさま」を、34人のOB、OG有志保存会による特別公演が演じられました。「にとはちさま」演劇は、毎年小学校持ち回りで演じられていますが、今回は約30分に短縮して披露されました。見る機会のなかった方も、古牧地区に伝わる義民助弥の物語を改めて知ることができました。主役を演じた高池貫太さん(18歳)は、「7年ぶりに演じることが出来ました。みんなと一致団結して頑張りました。」と話していました。



引続き大正琴、謡曲、舞踊と多彩な演芸が続き、最後の木遣り・太鼓の披露では観客からの掛け合いも入り大盛り上がりでした。



お楽しみ抽選会で特賞の自転車を手に入れた岡田彩花さん(古牧小5年生)「まさか当たるとは思わなかった。びっくりしました。」と、はにかんで話していました。



今回は「にとはちさま」の特別公演もあり入場者800人と、かつてない盛況のうちに閉幕しました。(公民館部)

いのちの重さはソーテ・サワサワ (みんな同じ)

古牧地区学校と地域で人権を考える集い

11月5日(水)午後、緑ヶ丘小学校にて第21回古牧地区学校と地域で人権を考える集いを開催しました。

一人ひとりの「違い」が尊重される社会へ～優しさに気づく人権感覚をそだてよう～をテーマに、前半は緑ヶ丘小学校全クラスでの授業参観、後半の全体会は、体育館に小学5年生・6年生260人、PTAと地域住民250人が参加しました。

古牧地区住民自治協議会小林会長から「学校・行政・地域が連携し、子ども達を守りたい。」と集会の趣旨を、開催校中野校長からは「人権とは、一人ひとり思いやりの心が大切である。命を大切に、皆と仲良く。」との話があり、来賓のあいさつに続き平出澄栄様、久保田省三様に、長年の功労に対する感謝状が授与されました。

続いて「命の重さはソーテ・サワサワ (みんな同じ)」のテーマで、飯綱町在住 小林フィデアさんの講演がありました。



小林フィデアさんは1970年タンザニア生まれ、1996年青年海外協力隊員として同国に赴任していた現夫と結婚して、長野県三水村(現飯綱町)に居住しています。現在レストランで働きながら、自らの被差別体験から外国人をめぐる人権問題について講演活動をし、タンザニアの子どもたちへの支援活動を続けています。



タンザニア国旗を演台に掲げて現れると、タンザニアのあいさつ「ジャンボー」「ジャンボー」と体育館に子どもたちの声が響きました。国旗の「緑 青 黄 黒」の色は、それぞれ「自然 海 金(ゴールド) 肌」の色を表しています。

タンザニアについての話から始まりました。自然豊かな平和の国、宗教はイスラム教とキリスト教、言葉はスワヒリ語と英語、126の部族からなり、文化も言葉も食べ物も違う。タンザニアの学校は、「勉強するところ」であり、「絆をつくるところ」であり、そして「規則も厳しいところ」です。

タンザニアの宝物は、次の4つです。

(日本の宝物は?)

- お年寄り 一番大切、お年寄りには知恵を持っている
- 子ども達 子どもは神の子、希望
- 障害者の皆さん
ともに生き、助けてあげよう、
同じ人間として
- お客様 大事にしよう

フィデアさんは、「タンザニアから日本に来て、肌の色が黒だから苦労したこと、苦しかったこと、悲しかったこともたくさんあった。でも、誰も憎まない、今では感謝している。」と言い、「人間は弱いもの。お互い許し合い、助け合い、前向きに生きて行きたい」と結びました。

小林フィデアさんの講演の感想を子どもたちからいただきました。

- 学校は絆をつくる場所と言われ、共感して、友達一人一人を大切に、いじめをなくしていけるように、絆を深めていきたい。
- 肌の色で差別され、すごく切ない気持ちになったのに、全てをプラスに考えて、前に進ん

で行こうとしていることがすごい。

- 生きることの素晴らしさ、命の軌跡を改めて考えさせてもらいました。

今回の集いで、私たちは最低限のルールを守り、互いに助け合い、許し合うこと、なによりいっそうの優しさが大事であると感じました。
(人権・男女参画部)

消防・防災体験とリサイクル施設視察研修

11月6日～7日の2日間、総務部会（総務部及び環境美化部）は富山県の施設へ視察研修旅行をした。視察研修先の施設は、いずれも長野県にない先進的な施設でした。



1日目は、富山市にある防災研修センター（国土交通省管轄）と広域消防防災センター（富山県管轄）



での体験研修です。ビデオによる災害現場での実働作業の研修に続き、震度4～7の地震



体験、カップ着用での流水豪雨体験、煙体験（廊下扉の開閉確認・脱出）と、災害に遭いどう対応すべきか身体で実感した。



2日目は、エコタウン交流推進センター（富山市）に行き、ビデオによる7事業者の会社説明の後、2つの会社を見学研修した。家庭・事業所からの廃油を自動車燃料に精製している会社、家庭生ごみを発酵させて発生させたメタンガスを貯蔵し、近隣施設に販売している会社（臭いがきつく作業は大変と感じた）



で、いずれも家庭ごみの有効利用によるリサイクル化に感心した。

視察研修では、途中富山ライトレール（電車）に乗車して、その乗り心地・便利さを体験し、無事に帰ってきた。



(総務部会)

12月、1月の主な行事実施日のお知らせ

*は、多くの皆様の参加をお待ちしています。

事業名	実施日	場所	実施内容	お問合せ先
年末交通安全運動	12月1日(月)			交通安全部 227-8219
一人暮らし高齢者のつどい *	12月9日(火)	古牧公民館	参加者の交流	ボランティアセンター 244-8159
介護者相談会	12月12日(金)	古牧公民館		ボランティアセンター 244-8159
年末防犯パトロール	12月上旬	各地区	夜間パトロール	防犯部 226-2525
新年祝賀会・消防出初式	1月10日(土)	古牧公民館	消防出初式、古牧地区新年祝賀会	事務局 259-8359
7公民館成人式	1月11日(日)	ホクト文化ホール	7公民館合同の成人式	公民館部 226-1562
男性の料理教室 *	1月16日(金)	古牧公民館		ボランティアセンター 244-8159

しゃばえんびつ



コンピュータと歩む

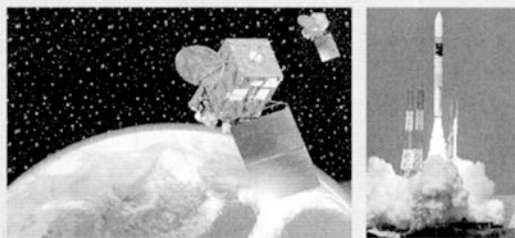
年齢を重ねて来ると今と昔のつながりが気になる。家庭内の電化製品も、洗濯機、冷蔵庫、テレビは大きく様変わりして来た。

そんな中で身近なツールとして、自身の手放せないものにパソコンがある。資料、写真等良きパートナーとして、記録保存というより記憶保存に役立っている。この歴史も、ここ30年位で随分変わったと思っている。苦手な暗算に変わり電卓なる物が登場し、字のうまい下手がわからないワープロが登場し、昨今ではデジカメ写真も、撮ったその場で確認し保存も簡単に出来る。今更ながら自分の情報革新に寄与してきたものだと感慨を新たにしている。

特にソフト面の進歩が目覚ましくワード・エクセルが登場してから、業務も含めて計り知れない効率化をもたらした。表・グラフはもとより、ネットワークを通しての情報交換は言葉には言い表せない。最近のスマホはどうだろう。これはまだ自分は享受してない。きっとこれもIT文化として超すごいのだろう。

イベントには天気の良いあしが気になるが、10月に打ち上げられた気象衛星「ひまわり8号」、来年には今の気象情報の数倍と言える情報を提供してくれる。これも画像のセンサー精度とデータ処理してくれるコンピュータのなせる技。昨年ホームビデオ編集のテクニックを覚え結構楽しめた。写真、ビデオを細切れに並べBGMを挿入したら結構おもしろい。あとは音声を吹込めば自分としては完璧、後々の楽しみとして取ってある。今年に入って3次元CADに食いついたら、これはこれで感激。バーチャルの世界だが、組立部品がそれぞれ動く様は脳のドーパミンを「どーっと」出してくれる。世の中に生まれたこのツールをいかに有効に活用していくか、これからも楽しみながら取り組みたいと思う。

来る年も健康・長生きできるよう、適度な体力づくりをしながら脳トレを兼ねて。
(岡宮 裕)



(写真は、気象庁HPより)



古牧地区の世帯数と人口

26年11月1日現在

10,932 世帯

26,510 人

(男 13,023人 女 13,487人)

- 発行所 古牧地区住民自治協議会
(電話 259-8359)
- 発行者 小林 逸郎
- 編集 ぷらネットこまき編集委員会
- 印刷 (有)小池印刷